

入社年度別新入社員タイプ一覧

入社年度	タイプ	解説
2024年度 (令和6年度)	自分の未来は自分で築く！ セレクト上手な新NISAタイプ	デジタルに慣れ親しんでいる一方、対面コミュニケーションの経験に乏しく、「仲間」以外の世代との距離感に戸惑う面がある。また、タイプ重視で唯一の正解を求める傾向が年々増している。言い換えれば「目標をはっきりと見定め、集中して向かっていく熱意と、効率を重視し最適解を実行する振る舞いに長けている」ということでもある。目標とする未来が定めれば、彼らは自分なりに情報を集め「セレクト」して歩き始める。コツコツ積み立てて業務を学んでいく(つみたて投資株)、あるいはアグレッシブにチャレンジするか(成長投資株)。彼らの選択を尊重しつつ、いかにサポートし導いていくかが問われていく。
2023年度 (令和5年度)	可能性は∞(無限大) AIチャットボットタイプ	新型コロナの猛威の中、大学生活のほとんどをオンラインカリキュラムで過ごした今年の新入社員。インターンシップや就活もオンライン選考がごく自然に盛り込まれ、むしろ対面での機会を増やそうという流れの中で入社を迎えた為、対面でのコミュニケーション不足から、こちらに特別意図のない発言やしぐさでも、ストレスに感じてしまうことがある。一方で、知らないことがあればその場でごく自然に検索を始めるデジタルネイティブ世代である彼らは、さまざまなツールを扱い答えを導き出すことにかけては、すでに高いスキルをもっている。AIチャットボットが適切なデータを取得することで進化していくように、彼らは適切なアドバイスを受けることで、想定を超える成果を発揮する可能性
2022年度 (令和4年度)	新感覚の二刀流タイプ	新型コロナウイルス感染症拡大防止でインターンシップや就職活動を対面とオンラインで二刀流のようにこなした入社を迎えたが、就活中に職場の雰囲気や仕事に関する情報が得にくかったこともあり、入社後は、思い描いていたイメージと実際のギャップにとまどいがある。これまでの新入社員とは異なる新感覚(オンライン慣れ、対面コミュニケーション不慣れ、配属・勤務地へのこだわり、SDGsへの興味、タイムパフォーマンス志向等)や未熟にみえる言動を受け止めたうえで温かく交流し、1人ひとりをみつめた育成支援をすれば、才能が開花し、環境変化にも適応で
2021年度 (令和3年度)	仲間が恋しい ソロキャンプタイプ	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて状況が一変するなか、オンラインでつながりつつも、不安で孤独な就職活動を行うこととなった。初めてだらけのソロキャンプのように、まごつくことも多かったが、気持ちを切り替え、工夫し、たくましくなった。自由さ・気楽さという魅力に気づいた人もいる。しかし、一方で、仲間への恋しさも募っている。社会に出てからは、自分の時間も楽しみたい、いろいろな人々と知りあい仲間づくりをしてほしい。先輩社会人も、彼ら・彼女らを働く仲間として受け入れ、積極的にフォローしてほしい。
2020年度 (令和2年度)	結果が出せる 厚底シューズタイプ	衝撃を吸収し身体に優しいということまで以前から話題になっていた厚底シューズ。今や、最新テクノロジーを組み込み、ノウハウの蓄積によって、駆伝やマラソン等の記録を更新し、世界的に期待・注目を集めている。これは、ITの進展と共に育ち、先輩たちのノウハウをうまく活かして就活を乗り切った今年の新入社員の姿と重なる。良い結果を生み出すには、走法を変更する等(コミュニケーション・指導や働き方の変更等)準備や調整が必要。
2019年度 (令和元年度)	呼びかけ次第の AIスピーカータイプ	注目のAIスピーカー(引き続きの売り手市場)。多機能だが、機能を十分に発揮させるためには細かい設定(丁寧な育成)や別の補助装置(環境整備)が必要。最初の呼びかけが気恥ずかしいが(オーダー！とか)、それなしには何も始まらない。多くの新入社員はAIにはできない仕事にチャレンジしたいと考えていることをお忘れなく。
2018年度 (平成30年度)	SNSを駆使する チームバシュートタイプ	オリンピックで金メダルを獲得した女子チームバシュート。3人が順序を入れ換えながらリンクを疾走する姿が記憶に残る。ここ数年続売り手市場傾向を追い風にスピーディーに就職活動を終えることができた。少数の仲間同士でSNSを活用し、綿密な情報交換で協力関係を構築し、内定というゴールをめざした。就活は短期決戦だったが、入社すればおよそ40年もの長期戦である。自分なりのテーマをもって仕事をする努力を怠れば周回遅れも。
2017年度 (平成29年度)	キャラクター捕獲ゲーム型	キャラクター(就職先)は数多く、比較的容易に捕獲(内定)出来たが、レアキャラ(優良企業)を捕まえるのはやはり難しい。レアキャラを捕獲するためにはネット・SNSを駆使して情報を収集し、スマホを片手に東奔西走しなければならぬ。必死になりすぎて危険地帯(ブラック企業)に入らぬよう注意が必要。はじめは熱中して取り組むが、飽きやすく(早期離職)、モチベーションを維持するためにも飽きさせぬような注意が必要(やりがい、目的の提供)。
2016年度 (平成28年度)	ドローン型	強い風(就職活動日程や経済状況の変化)におおられたが自立飛行を保ち目的地に着地(希望の内定確保)できた方が多かった。更なる技術革新(スキルアップ)で貢献がきたい。なお、夜間飛行(深夜残業)や目視外飛行は規制されており、ルールを守った運用や使用者の技量(適性)の見極めも必要
2015年度 (平成27年度)	消せるボールペン型	見かけはありきたりでも、書き直しができる機能=変化に対応できる柔軟性がある。ただ、不用意に熱を入れると、色=個性が消え、使い勝手の良さから、酷使しすぎるとインクが切れて、離職してしまふ。
2014年度 (平成26年度)	自動ブレーキ型	情報収集能力にたい頭の回転が速い。高感度センサーで障害物を敏感に察知し事故を未然に回避する自動ブレーキをほうふつとさせる。その反面、人を傷つけない安心感はあるが、どこか馬力不足。
2013年度 (平成25年度)	ロボット掃除機型	部屋の隅々まで効率的に動き回り家事の時間短縮に役立つ。ただ段差(プレッシャー)に弱く、たまに行方不明や裏返しになり、もがき続けたりする。能力発揮には環境整備(職場のフォローや丁寧な育成)が必要。
2012年度 (平成24年度)	奇跡の一本松型	東日本大震災にも耐えて生き残った「奇跡の一本松」の話は、復興に向けて多くの人に勇気を与えてくれた。自然災害をはじめ「想定外」の事態に直面することもあるが、その困難を乗り越えていくことが期待される。
2011年度 (平成23年度)	はやぶさ型	宇宙探査機「はやぶさ」が7年にも及ぶ長旅から帰還…最初は音信不通・制御不能にハラハラさせられるが、長い目で見れば期待した成果をあげることができる。あきらめずに根気よくシグナルを送り続けることが肝心
2010年度 (平成22年度)	ETC型	目急に関係を築こうとする直前まで心の「バー」が開かない。スピード出し過ぎご用心。人との直接的な対話がなくなるのが心配。「ゆとり」ある心を持って上手に接することが大事。
2009年度 (平成21年度)	エコバッグ型	境問題(エコ)に関心が強く節約志向で無駄を嫌う傾向があり折り目正しい。小さくためて便利だが、使うときには大きく広げる(育成する)必要がある。意外に耐久性に優れた面もあり、活用次第で有用となる。
2008年度 (平成20年度)	カーリング型	磨けば光る…育成の方向を定めそっと背中を押しブラシでこすりつつ周りは動きやすい環境作りに廣心する。しかし、少しでもブラシでこするのをやめると、減速したり、止まってしまったりしかねない。
2007年度 (平成19年度)	デイトレーダー型	景気の回復で久々の大量採用だったが、氷河期前とは異なり細かい損得勘定で銘柄(会社)の物色を継続し、安定株主になりにくい。売り手市場だっただけに、早期転職が予想される。
2006年度 (平成18年度)	ブログ型	表面は従順だが、様々な思いを内に秘め、時にインターネット上の日記を通じ大胆に自己主張する。繊細な感受性とブログ的なネットワーク力に優れるが、パソコンに語るだけに止まる傾向もある。
2005年度 (平成17年度)	発光ダイオード型	電流を通す(=ちゃんと指導する)と、きれいに光る(=いい仕事をする)が、決して熱くはならない(=冷めている)。
2004年度 (平成16年度)	ネットオークション型	ネット上で取引が始まり、良いものには人気を殺しきって売れる一方で、PR不足による売れ残り多数。一方で、ブランド名やアビリティに釣られて高値で落札したものの、入手後にアテが外れることもある。
2003年度 (平成15年度)	カメラ付ケータイ型	その場で瞬時に情報を取り込み発信するセンスや処理能力を持ち、機能も豊富だが、経験や知識がなかなか蓄積されない。また、中高年者にとって使いこなしきれない側面もある。
2002年度 (平成14年度)	ボディピロー型 (抱きまくら)	クッション性あり、等身大に近いので気分はいいが、上司・先輩が気ままに扱いすぎると、床に落ちたり(早期退職)、変形しやすいので、素材(新人の質)によっては、様々メンテナンスが必要。
2001年度 (平成13年度)	キシリトールガム型	種類は豊富、価格も手ごろ。清潔イメージで虫歯(不祥事)予防に効果ありそうで、味は大差ない。
2000年度 (平成12年度)	栄養補給食品型	ビタミンやミネラル(語学力やパソコン活用能力)を豊富に含み、企業の体力増強に役立ちそうだが、直射日光(叱責)に弱く、賞味期限(試用期間)内に効果(ヤル気)薄れることあり。
1999年度 (平成11年度)	形態安定シャツ型	防縮性、耐摩耗性の生地(新人)多く、ソフト仕上げで、丸洗い(厳しい研修・指導)OK。但し型崩れ防止アイロン(注意・指示)必要。
1998年度 (平成10年度)	再生紙型	無理な漂白(社風押し付け)はダイオキシンの出るが、脱墨技術(育成法)の向上次第で新タイプの紙(新入社員)として大いに市場価値あり。
1997年度 (平成9年度)	ボディシャンプー型	泡立ち(適応性)よく、香り(個性)楽しめるが、肌(会社体質)に合わないこともある。石鹸(従来社員)以外に肌を慣らすことも必要。

※～2017年 公益財団法人 日本生産性本部「職業のあり方研究会」発表による ※2018年～(株)産労総合研究所「新社会人の採用・育成研究会」事務局による

就職活動や進路選択の相談

2024年度新卒者:①大学キャリアセンター ②友人 ③親 と順位が変更しました

就職先の最終的な決め手

①成長ができそうだから(17%) ②仕事を楽しそうだから(15%) ③自分の能力、個性を活かせそうだから(12%)

※複数回答可の集計では福利厚生が充実しているからも比較的多かったようです